



中津川右俣：滝も楽に越してゆけた

る。

まもなく水量も
少なくなり、滝も
かからなくなった。
九時五分、遡行
を打ち切って、左
手の尾根に登る。

(記・辛)

「タイム」 遡行開

始(八:三〇)

↓遡行終了(九:五五)↓尾根(一

〇:一〇)

このあと小滝の連続を通過し、二俣に出る。我々は、尾根一本左の沢の下降を予定していたので、左に入

中津川左俣右支沢

上
一九八二年八月九日

尾根上は見通しがきかず、現在地
が十分確認できないまま、一〇時一

〇分下降開始。結果的にはこれが失
敗で、予定していた中津川左俣本流

ではなく、右支沢の下降となつてしまつた。

尾根から一〇分も下ると、沢になる。まもなく一〇分の滝があり、このほかにも二、三の小滝があったが、特に問題となるようなところもなく、一一時に左俣本流に出る。

この先は左俣本流を下る。右岸には袖道(おそらく営林署の作業用道)と赤の電線が、並行して走っていた。

しばらくは沢に倒木があり、歩みにくい。やがて踏跡は沢から離れてゆく。すると倒木もなくなり、歩きやすくなる。

小滝とナメが続く。コケが多いが、フリクションはよくきく。最後の右俣出合まじかの六分滝をクライミングダウンして、今日の行動を終える。

(記・辛)

「タイム」 下降開始(一〇:一〇)↓

左俣本流(一一〇〇) ↓ 下降終

了(一二二五)

中津川左俣

一九八六年八月三日

朝、和泉さん宅によってから出発。

中津川林道に車を進めるが、林道の終点近くで、法面が崩壊して先に進めず、バックしてスペースのある所に駐車。その後、中津川に下降する。

中津川左俣の出合に行くと、すぐ滝があり、ゴルジュを形成している。滝の中には直登できないものもあるが、滝のすぐわきを木の枝を利用して登ることができる。

ゴルジュを過ぎると、沢は明るくなる。そして沢の中は、倒木というより、伐採した時の残材が沢をうめつくして、歩きにくい。

沢に入って約一時間。西さん達が下降に使った右支沢との分岐となる。見逃してしまいそうな小さな沢である。

さらに進むと二俣。右沢の方がい

くらか水量が多い。左沢へ歩を進める。

左沢に入ると、小滝がポツリ、ポツリとあるが、なんとといっても、ナメ、ナメの連続である。いずれも花崗岩の風化したナメ床である。所々、流水の侵食作用により、花崗岩がトイ状にえぐられている箇所がある。

左沢に入って四〇分、傾斜もきつくなり、ヤブもかぶさってきた。源頭のようなのである。遊行終了として、

